

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：32606

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13827

研究課題名(和文)のれん非償却のプロシクリカリティ

研究課題名(英文)Procyclicality of goodwill permanent retention

研究代表者

GARCIA Clemence (GARCIA, Clemence)

学習院大学・国際社会科学部・教授

研究者番号：60440179

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：Starting from the history of goodwill, this research has evolved into a large-scale survey of disclosure practices of intangible assets. It has been published and presented in international and domestic venues. Since 2021, investigation is jointly pursued with the EAA working group on intangibles.

研究成果の学術的意義や社会的意義

The scientific contribution is twofold: historical perspective on accounting for goodwill in the US and France; international survey on the disclosure of intangibles in the pharmaceutical industry. A comment letter from the EAA was sent to EFRAG based on this research.

研究成果の概要(英文)：Starting from the history of goodwill, this research has evolved into a large-scale survey of disclosure practices of intangible assets. It has been published and presented in international and domestic venues. Since 2021, investigation is jointly pursued with the EAA working group on intangibles.

研究分野：Accounting

キーワード：Goodwill Intangible assets Accounting Financial Reporting Accounting History

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 研究成果報告書

### 1. 研究開始当初の背景

各国の無形資産会計は多様である。ほとんどの国では、国内基準においてのれんの資産計上と一定期間にわたる償却を強制している。ところが、国際財務報告基準、アメリカ会計基準、フランス会計基準等では、のれんの償却の代わりに減損テストの実施を強制している。その結果、のれんの測定に大きな違いが出ており、償却費の計上を行うか否かの結果として純利益の測定にも大きな差額が発生する。例えば、2005年にフランス上場企業におけるのれんの償却費の純利益への影響は、42%に及んでいた。

こういった問題は、企業結合が増える傾向の中で、そして、国際財務報告基準の適用が拡大する中で、学術研究において徐々に重視されてきている。

### 2. 研究の目的

本研究では、ファイナンス領域の学術研究において指摘された、会計測定「プロシクリカリティ」つまり経済循環増幅効果について検討するものである。代表的な例として、金融商品の公正価値測定が、株式市場が弱気の際に企業のパフォーマンスに悪影響を与えることで、さらに株価が下落すると循環増幅効果が指摘されている。本研究においては、無形資産の非償却と減損も同様の影響を及ぼしているかどうかについて検討している。例えば、のれんの収益力が落ちた時に減損損失を計上することで、営業利益の減少に加えて更にのれんの減損が原因となるパフォーマンスへの悪影響が発生する。一方、もしのれんを償却する場合には、このような循環的な増幅は発生せず、均等にのれん代が配分されることとなる。企業にとって、どのアプローチが望ましいかというのは、本研究の目的を超える課題であるが、次のような2つの観点からのれんの「プロシクリカリティ」について検討する。

のれん非償却の短期的な影響として、企業行動に変化をもたらすか？

日本企業の情報を用いて、国際財務報告基準を適用するサンプルと日本の会計基準を適用するサンプルに分類する。その分類をもとに、それぞれのM&A活動と無形資産の変化を比較する。

のれん非償却の長期的な影響として、会計規制に変化をもたらすか？

アメリカとフランスは20世紀前半から長年無形資産の非償却が適用されてきた経験がある。アメリカでは、1950年代以前と2000年代以降におけるのれんの非償却が主流であり、それは会計基準設定のみならず、企業のM&A活動に大きく影響した。フランスでも1920年代以降のれんの非償却が主流となったが、法人税法やヨーロッパ内の会計基準調和化の影響を受け、制度改革を多く経験している。本研究では、歴史的な観点からのれんの償却・非償却の影響が会計規制にどのような変化をもたらしたのかについて検討する。

### 3. 研究の方法

のれん非償却の短期的な影響

上場日本企業の財務データとM&Aに関するデータを集め、国際財務報告基準適用企業と日本基準適用企業のサンプルに分類し、それぞれへの影響について統計的手法を用いて比較した。

のれん非償却の長期的な影響

アメリカとフランスの文献を調査し、会計制度と企業行動や経済の変化について歴史的に検討した。

研究を進める中で、当初目的としていなかった課題も生まれ、のれんと個別無形資産の会計処理の間の関係性について、もう一つの検討を加えた。

国際財務報告基準を適用している、全世界の製薬業のサンプルについて、財務データと記述データを収集した。それらのデータに基づき、のれんと個別無形資産、自己創設無形資産に関するディスクローチャーを分析した。

## 4. 研究成果

主な研究成果は、以下の通りである。

### のれん非償却の短期的な影響

国際財務報告基準を適用している企業サンプルと日本基準を適用しているサンプルを比較したところ、のれんを償却しない国際財務報告基準のサンプル企業のほうが活発に M&A を行い、無形資産の金額も多かった。ただし、本研究において企業比較のサンプルマッチングについて統計的に妥当な条件を満たすことが出来なかったため、研究成果としては公表していない。その代わりに、 のれん非償却の研究を進めることとした。

### のれん非償却の長期的な影響

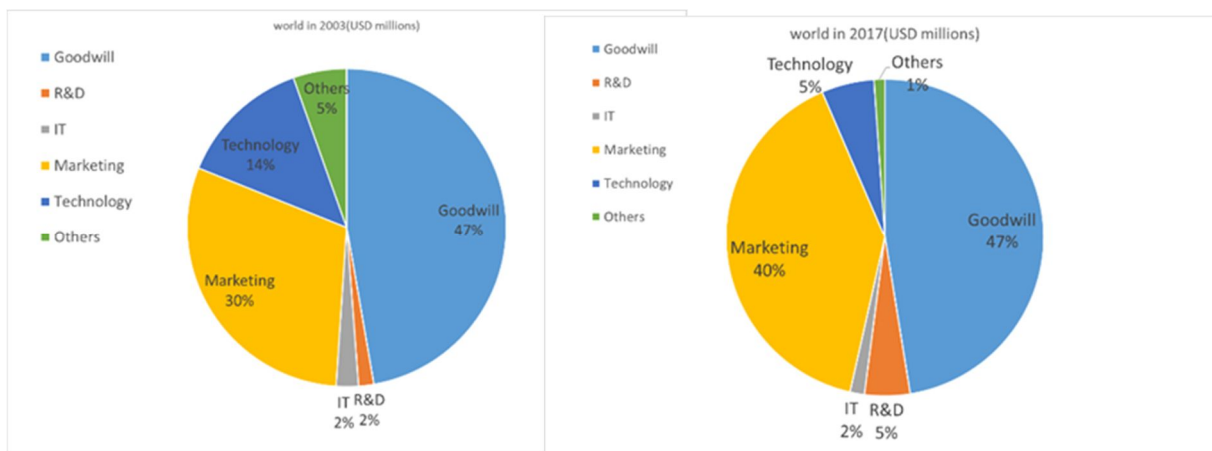
アメリカののれん会計の歴史については、1929 年の大恐慌の影響によるプロシクリカリティの問題が指摘される。ただし、当時はまだプロシクリカリティの概念は言葉として使われず、保守主義の観点から循環増幅効果が指摘された。また、のれん会計における大きな改革と、会計基準設定団体の組織変更が連動していることも指摘されている。この観点からは、無形資産会計がアメリカの会計規制に大きな影響を与えてきたと言えるだろう。

フランスは、逆に会計基準に非常に変動が少なかった国であり、EU 内調和化への対応のための改正の影響のみを受けてきた。

これらの点について研究成果として、複数の海外学術団体への発表や、査読付き論文の執筆を行った。

### のれんと個別無形資産との関係

のれんと M&A で取得された無形資産の認識には相互に代替的な関係性が見られた。しかし、これらは取得後の測定の取扱いとは異なっており、個別の無形資産はのれんと違って償却が可能である。



2003 年から 2017 年までのデータからは、「分離可能性」の基準によって、認識される顧客・ブランド・技術などが増えたといえる。当該無形資産は、法的権利に基づくものではないため、耐用年数の確定は企業の判断によって行われる。例えば、ブランドの中でも償却されるものと、されないものがある。

製薬会社のサンプルからは、個別無形資産のほとんどが償却されていると判明した。今後の研究として、この事実についてさらに検討していきたい。

これらの点について、ヨーロッパ会計研究学会の無形資産のグループのメンバーとして EFRAG (European Financial Reporting Advisory Group) へのコメントレターを発信した。また、複数の発表と学術論文の執筆をおこなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 GARCIA Clemence, TAKAHASHI Mioko, HOSHI Akio	4. 巻 1
2. 論文標題 Share Capital, Financial Reporting and Dividend Regulation in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ELI project on Corporate Sustainability	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 GARCIA Clemence	4. 巻 3
2. 論文標題 National Differences in the Disclosure of Intangible Assets	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 AGISSS Research Series	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 GARCIA Clemence	4. 巻 VII(2)
2. 論文標題 From financial to sustainable capital maintenance	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal for International and European Law, Economics and Market Integrations	6. 最初と最後の頁 229 - 243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.22598/ieie.2020.7.2.9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 GARCIA Clemence	4. 巻 17(5)
2. 論文標題 Accounting for Equity Capital and Corporate Sustainability	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 European Company Law	6. 最初と最後の頁 176 - 182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 GARCIA Clemence, 板橋雄大	4. 巻 310
2. 論文標題 分散型台帳技術の企業会計への適用に関する検討 情報移動手段としてのサイドチェーンの活用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京経大会誌	6. 最初と最後の頁 95 - 105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 GARCIA Clemence, 板橋雄大	4. 巻 80(4)
2. 論文標題 増価基準による所得課税に関する一考察 - 売買目的有価証券の時価会計を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 産業経理	6. 最初と最後の頁 120 - 130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 GARCIA Clemence, 板橋雄大	4. 巻 194(4)
2. 論文標題 フランスにおけるのれん概念とEUの会計調和化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済論叢 (京都大学)	6. 最初と最後の頁 79 - 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 GARCIA Clemence	4. 巻 1
2. 論文標題 Share Capital and Dividend Regulation in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 European Law Institute SIG project report	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 NAKANO, Takayuki, GARCIA, Clemence etc al.	4. 巻 1
2. 論文標題 IFRS強制適用に関する研究(最終報告)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際会計研究学会スタディーグループ報告書	6. 最初と最後の頁 101-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 GARCIA Clemence	4. 巻 1
2. 論文標題 IFRS強制適用に関する比較研究(フランス)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際会計研究学会スタディーグループ報告書	6. 最初と最後の頁 51-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 GARCIA Clemence	4. 巻 195
2. 論文標題 中小企業会計情報と経済統計—フランスにおける現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 會計	6. 最初と最後の頁 180-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 GARCIA Clemence, KATSUO Yuko, VAN MOURIK Carien	4. 巻 1
2. 論文標題 Goodwill accounting standards in the United Kingdom, the United States, France and Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Accounting History	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1032373217748672	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 GARCIA Clemence	4. 巻 77 (3)
2. 論文標題 フランスにおけるのれん会計の歴史	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 産業経理	6. 最初と最後の頁 145 - 152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 13件)

1. 発表者名 GARCIA Clemence, TAKAHASHI Mioko, HOSHI Akio
2. 発表標題 Corporate Sustainability, Financial Accounting and Share Capital, Japan Report
3. 学会等名 European Law Institute project webinar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 Disclosure of additional information on Intangibles
3. 学会等名 EAA-EFRAG-IASB Reporting Standard Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 GARCIA Clemence, ITABASHI Takeo
2. 発表標題 Intangible assets and the Emergence of "Quasi-Goodwill"
3. 学会等名 Korean International Accounting Association Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 An Accounting perspective on Distributed Ledger technology
3. 学会等名 FIRE project workshop, Orebro (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 Accounting for Corporate Sustainability and Capital Maintenance Regimes
3. 学会等名 4th International Conference on Company Law and Corporate Governance (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 GARCIA Clemence, 板橋雄大
2. 発表標題 分配台帳技術の企業会計への適用に関する検討
3. 学会等名 日本会計研究学会、北海道大学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 GARCIA Clemence, 板橋雄大
2. 発表標題 Accounting for intangible assets in the pharmaceutical industry
3. 学会等名 日本国際会計研究学会、京都大学
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 Accounting and Law for equity capital, creditor protection and corporate sustainability
3. 学会等名 European Law Institute Annual Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NAKANO, Takayuki, GARCIA, Clemence etc al.
2. 発表標題 IFRS強制適用に関する研究(最終報告)
3. 学会等名 国際会計研究学会第36回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 How accounting for goodwill relies on underlying assumptions: a historical approach
3. 学会等名 14th workshop on European financial reprotng (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 Accounting for goodwill and procyclical effects on M&A activity
3. 学会等名 30th annual conference of the society for advancement of socio-economics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 中小企業会計情報と経済統計
3. 学会等名 日本会計研究学会、第77回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 IFRS強制適用に関する研究
3. 学会等名 国際会計研究学会、第35回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 国際会計基準の下での非上場企業・中小企業をめぐる課題－欧州の観点
3. 学会等名 国際会計研究学会第8回東日本部会 統一論題（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 条件付規範的会計理論から見たのれん会計
3. 学会等名 会計理論学会第32回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 Accounting for intangible assets in the pharmaceutical industry: towards a quasi-goodwill category
3. 学会等名 29th Annual SASE Conference, Lyon (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 GARCIA Clemence, KATSUO Yuko, VAN MOURIK Carien
2. 発表標題 Goodwill accounting standards in the UK, the USA, France and Japan
3. 学会等名 29th Annual SASE Conference, Lyon (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 GARCIA Clemence, ITABASHI Takeo
2. 発表標題 Abacus based bookkeeping in Japan: from ancient techniques to modern Western-style accounting
3. 学会等名 AAAA conference, Taipei (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 Accounting for goodwill: a theoretical study based on the conditional-normative methodology
3. 学会等名 AAAA conference, Taipei (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 Accounting for intangible assets in the pharmaceutical industry
3. 学会等名 LABEX, Paris (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 GARCIA Clemence
2. 発表標題 日本と欧州における減価償却制度
3. 学会等名 税務大学校公開講座 (招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 KOFLER Georg (ed) GARCIA Clemence	4. 発行年 2021年
2. 出版社 IBFD	5. 総ページ数 1014
3. 書名 Implementation and Lasting Effects of the OECD Multilateral Instrument	

1. 著者名 BUTANI Mukesh (ed) GARCIA Clemence	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Thomson-Reuters	5. 総ページ数 1014
3. 書名 GAAR: the Final Tax Frontier	

1. 著者名 KOFLER Georg, GARCIA Clemence, al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 IBFD	5. 総ページ数 936
3. 書名 Controlled Foreign Company Legislation	

1. 著者名 中野貴之, GARCIA Clemence, その他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同文館出版(株)	5. 総ページ数 424
3. 書名 IFRS適用の知見	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Garcia personal homepage <a href="https://sites.google.com/view/garcia-clemence/research?authuser=0">https://sites.google.com/view/garcia-clemence/research?authuser=0</a>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------